

令和 2 年度 SIP 第 2 期課題評価の考え方と次年度予算配分の考え方について

令和 3 年 2 月 25 日
ガバニングボード決定

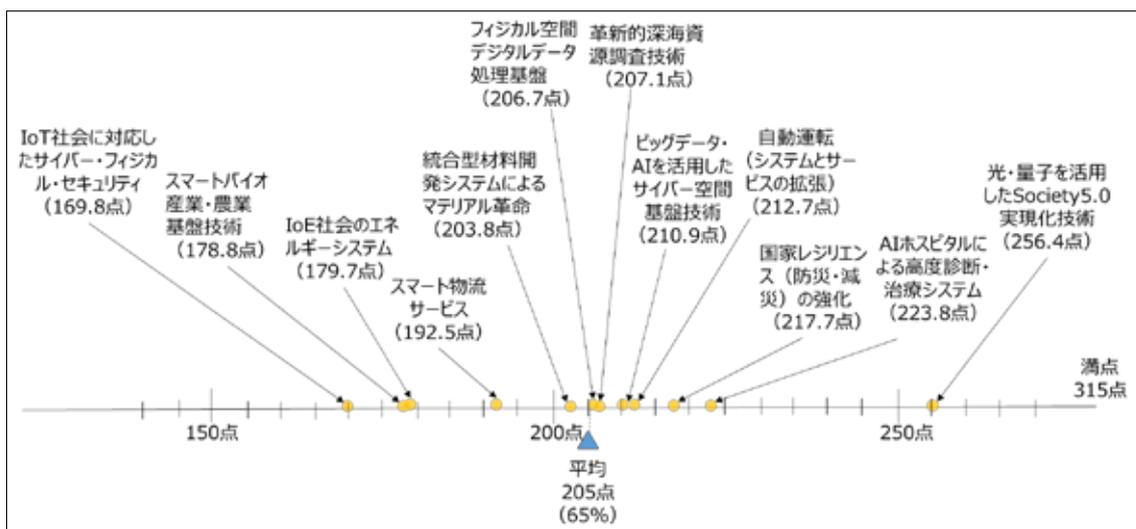
戦略的イノベーション創造プログラム運用指針に基づき、ガバニングボードが招聘する外部の専門家（別紙 1 参照）で構成する課題評価 WG を開催し、各課題の評価を実施した。ガバニングボードにおいて、課題評価 WG の結果を参考に令和 2 年度の各課題の評価を最終決定する。

本年度は SIP 第 2 期の 3 年目となり、中間評価にあたることから、これまで以上に研究開発の成果、達成度及び社会実装に向けた取組に重点をおいた評価とするとともに、PD によるステージゲートをはじめとする研究テーマに対する評価やマネジメントが適切に実施されているかを評価項目として追加し、より充実した評価を実施した（別紙 2 参照）。

令和 2 年度 SIP 第 2 期課題評価では、平成 30 年度及び令和元年度課題評価における評価基準・評価項目との整合性及び継続性を確保するため、7 段階（S、AA、A+、A、A-、B+、B）評価を引き続き採用し、評価を行う。具体的には、課題評価 WG における課題評価結果を参考に、「SIP の制度評価及び課題評価について」（平成 30 年 8 月 2 日ガバニングボード決定）に定める標語への適合を審議し、「課題評価のランク付け」及び「次年度予算への反映」について別添のとおり決定する。このとき、「次年度予算への反映」については、「令和 2 年度 SIP 第 2 期課題評価の考え方について」（令和 2 年 9 月 24 日ガバニングボード決定）を踏まえて決定する。なお、評価結果は、各研究開発計画の見直し、次年度以降の予算配分、に厳格に反映させることとする。

「課題評価のランク付け」及び「次年度予算への反映」方針

1. 課題評価 WG の評価結果(採点結果)



2. SIP 第2期課題評価のランク付け

「SIP の制度評価及び課題評価について」(平成 30 年 8 月 2 日ガバナリングボード決定)に定める「第2期課題評価のランク付け」に基づく評価と標語に対し、満点 315 点に対する得点率をもって7段階のランクの閾値(平均 205 点(得点率 65%)を A の中心点とし、±10%の点をそれぞれランクの区分け)とした。

評価	標語	ランク付け (得点率)
S	極めて挑戦的な高度な目標を達成し、実用化・事業化も十分見込まれており、想定を大幅に上回る成果が得られている。	S 299.5(95%)
AA	適切に設定された目標を大幅に達成しており、実用化・事業化も十分見込まれており、想定以上の成果が得られている。	299.25(95%)>AA 268 (85%)
A+	適切に設定された目標を達成しており、実用化・事業化も十分見込まれるなど、想定以上の成果が得られている。	268 (85%)>A+ 236.5(75%)

A	目標の設定・達成ともに概ね適切であるなど、当初予定どおりの成果が得られている。	236.5 (75%)>A 173.5(55%)
A -	目標の設定又はその達成状況が十分ではないなど、予定を下回る成果となっている。	173.5(55%)>A- 142(45%)
B +	目標の設定又はその達成状況が極めて不十分で、予定を大幅に下回る成果となっている。	142(45%)>B+ 110.5(35%)
B	目標の設定、その達成状況その他大きな改善を要する面がみられる。	110.5(35%)>B

3. 次年度予算への反映

「令和2年度 SIP 第2期課題評価の考え方について」(令和2年9月24日ガバニングボード決定)に基づき、令和3年度の配分額算定のベース(以下、「令和3年度配分基礎額」とする)について評価を行った結果、これまでの考え方と同様とし、令和2年度当初配分額を令和3年度配分基礎額とすることとする。この際、同ガバニングボード決定に従い、4課題(ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術、フィジカル空間デジタルデータ処理基盤、スマートバイオ産業・農業基盤技術、IoE社会のエネルギーシステム)については、令和元年度の追加配分額を令和3年度配分基礎額に組み入れ、それ以外の課題については組み入れないこととする。

前項及び上記の考え方を踏まえ、課題評価結果を踏まえた前年度当初予算比を決定する。

評価	前年度当初予算比	課題評価結果を踏まえた前年度当初予算比
S	+50%以下	(該当なし)
AA	+30%以下	(該当なし)
A +	+10%以下	「光・量子を活用した Society5.0 実現化技術」は、+10%とする。
A	0%以下	「AI ホスピタルによる高度診断・治療システム」以下8課題は、±0%とする。 「IoE社会のエネルギーシステム」及び「スマートバイオ産業・農業基盤技術」は、平均点との差分よりもA評価の下限との差分の方が小さく、A-評価に近いことから、A評価ではあるものの、-5%とする。
A -	10%以下	「IoT社会に対応したサイバー・フィジカル・セキュリティ」は、-10%とする。

B+	30%以下	(該当なし)
B	事業中止を検討	(該当なし)

なお、上記の次年度予算は政府予算成立をもって確定するものであるため、政府予算成立を仮定し検討するものである。

(別紙1)

2020年度SIP第2期課題評価WG委員名簿

座長

須藤 亮 内閣府政策参与・SIPプログラム統括

委員

小豆畑 茂 元 株式会社日立製作所 フェロー
五十嵐 仁一 ENEOS総研株式会社 代表取締役社長
江崎 浩 東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授
岡崎 健 東京工業大学 科学技術創成研究院 特命教授
小栗 久典 弁護士法人内田・鮫島法律事務所 パートナー弁護士
君嶋 祐子 慶應義塾大学 法学部・大学院法学研究科 教授
小宮山 宏 株式会社三菱総合研究所 理事長
小向 太郎 中央大学 国際情報学部 教授
佐々木 良一 東京電機大学 研究推進社会連携センター 顧問・客員教授
白井 俊明 元 横河電機株式会社 フェロー
竹中 章二 池上通信機株式会社 技術顧問
林 いづみ 桜坂法律事務所 弁護士
藤野 陽三 城西大学 学長
吉本 陽子 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 経済政策部 主席研究員

(敬称略、五十音順)

(別紙2)

課題評価 WG における審査の視点と配点

A. 課題目標の達成度(技術競争力、達成度、出口戦略等)(満点 190 点)

審査の視点	配点
研究成果の新規性・実用性	10
国際競争力	10
研究成果で期待される波及効果	10
達成度(1)(今年度の設定目標に対する達成度)	40
達成度(2)(終了時の目標の達成見込み)	40
達成度(3)(社会実装の体制構築に向けた達成見込み)	50
知財戦略、国際標準化戦略、規制改革等の制度面の出口戦略	10
成果の対外的発信	10
国際的な取組・情報発信	10

B. 課題マネジメント(目標、実施体制、マッチングファンド、連携等)(満点 125 点)

審査の視点	配点
ア) 研究開発目標	-
Society5.0の実現を目指すもの。	10
イ) 実施体制	-
社会実装を実現するためのマネジメント体制が構築されているか。	20
研究テーマに対する評価、マネジメントが適切に実施されているか。	20
ウ) SIPの特徴	-
民間から適切な負担を求めているか。官民の役割分担が適切になされているか。(本来民間でやるべきものに国費(SIP予算)を投じていないか。)	10
マッチング額が十分に計上されているか。	20
エ) 連携	-
産学官連携体制の構築、研究開発の成果を参加企業が実用化・事業化につなげる仕組みが適切に実施されているか。	10
府省連携が不可欠な分野横断的な取り組みとして実施されているか。	10
SIP第2期で実施する他の課題との連携が適切に図られているか。	5
オ) その他	-
上記のア)~ウ)以外に、マネジメントの観点から評価すべきこと(プラス評価になること)があれば追加可。(研究テーマの絞り込みや追加のマネジメントが適切かなど。)	20

以上